

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒状況（技術情報第2号）について（送付）
このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考に御活用ください。

記

本年のヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は平年より低いことから、イネ縞葉枯病の発生は少ないと予想される。

1 調査結果の概要

5月中旬に麦主産地である玉名市、嘉島町、氷川町、多良木町のそれぞれ3地点、合計12地点の麦ほ場からヒメトビウンカ（成虫および幼虫）を採集し、簡易ELISA法を用いてイネ縞葉枯ウイルス保毒虫検定を実施した。結果は以下のとおりであった。

- (1) 保毒虫が3ほ場で確認されたが、保毒虫率の平均値は0.6%で平年より低く（平年3.3%）、前年並（前年0.2%）であった（表1、図1）。
- (2) 近年、県内の保毒虫率は低い状態がつづいている（図1）。

2 今後の留意点

本年のイネ縞葉枯病の発生は少ないと予想されるが、昨年本病の発生が多かったほ場では、本田での発病に注意し、以下のとおり対策を行う。

- (1) 発病株は伝染源になるので、できるだけ早めに抜き取る。
- (2) 最高分げつ期に感染すると不稔となり収量が低下するので、本田での発病やヒメトビウンカの発生が多いほ場は防除を行う。
- (3) 県内では、イミダクロプリド（商品名：アドマイヤー等）、フィプロニル（商品名：プリンス等）に対して感受性が低下したヒメトビウンカの発生が確認されている。これら薬剤を箱施薬剤に使用しているほ場では、ほ場観察や発生予察情報により、ヒメトビウンカの発生を把握し、発生が多い場合は効果のある薬剤で防除を行う（平成29年3月10日付技術情報第14号参照

http://www.jppn.ne.jp/kumamoto/H28/yosatu/170310gi_jyutu.pdf）。

表1 ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫検定結果(平成30年5月)

| No. | 地点名 | 検定数 (頭) | 保毒虫数 (頭) | 保毒虫率 (%) |
|-------------------------------|---------|------------|-------------|-------------------------|
| 1 | 玉名市北牟田1 | 100 | 0 | 0.0 |
| 2 | 玉名市北牟田2 | 100 | 0 | 0.0 |
| 3 | 玉名市北牟田3 | 100 | 0 | 0.0 |
| 4 | 嘉島町上六嘉1 | 100 | 1 | 1.0 |
| 5 | 嘉島町上六嘉2 | 100 | 2 | 2.0 |
| 6 | 嘉島町上六嘉3 | 100 | 4 | 4.0 |
| 7 | 氷川町若洲1 | 100 | 0 | 0.0 |
| 8 | 氷川町若洲2 | 100 | 0 | 0.0 |
| 9 | 氷川町若洲3 | 70 | 0 | 0.0 |
| 10 | 多良木町久米1 | 9 | 0 | 0.0 |
| 11 | 多良木町久米2 | 62 | 0 | 0.0 |
| 12 | 多良木町久米3 | 53 | 0 | 0.0 |
| 合 計 | | 994 | 7 | 0.6^{※1} |
| 昨年値(多良木町を除く9地点で調査、検定数各地点100頭) | | | | 0.2 |
| 平年値(過去10年の平均) | | | | 3.3^{※2} |

※1: 地点No.10の保毒虫率は検定数が少ないため平均値から除外した。

※2: 本年は簡易ELISA法、平年値は簡易ELISA法(H27~H29)と
高比重ラテックス凝集反応法(H20~H26)による検定結果をもとに算定した。

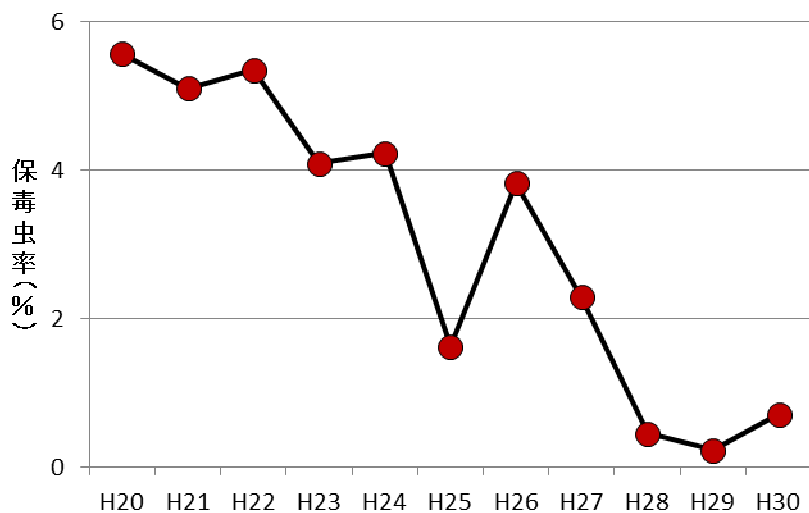


図1 イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の推移

熊本県病害虫防除所
 (熊本県農業研究センター 生産環境研究所
 病害虫研究室 予察指導係)
 担当: 坂本、清永 TEL 096-248-6490